

## IFSW 略史

著者：ローリー・トルール博士、IFSW 事務局長

### 要約

国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）には、素晴らしい、豊かで、魅力的な歴史があり、87 年以上に亘って背後にある 2 団体と関わりを持ち発展してきた。IFSW は、その設立当初から、過去においても、現在においても世界が驚異的な挑戦に満たされた際には、ソーシャルワーカーが情緒的、精神的、社会的局面で対処できるように強力な世界的専門職の発展を断固として擁護してきた。

そのような挑戦には、植民地化の成長と部分的な崩壊；大規模の破壊と移動を引き起こした 2 つの世界大戦；経済の世界化およびそれに伴う経済規制の始まり、そして、それに続く経済の世界化、そして、世界中で何億もの人々が受ける苦しみの破壊的な余波を残すことになった世界的な経済的規制解除と続くのである。

本稿は、IFSW の歴史を紹介して、社会的現実に対処するためにどのように専門職が出現したかを示し、この専門職が、かつて、不当な世界に対して「バンドエイド」、従って「問題の一部」だけしか提供がなかったためにいかに批判されたかを示し、この専門職がなぜ現在は強力になり、成長する将来を持つに至ったかで終わる。

### IFSW とは、何か？

IFSW は多くのボランティアによる巨大な献身的関与があり、国家レベルの会員による財政的な貢献があったので 87 年を生き残った。このような支援が生まれ、国際的な団結の実証がなければ、この専門職は纏まりがなく、断片的なものになったであろうし；国家は必ずしも近隣国と同じである必要がないので、独自の基準を持つであろう。しかし、これでは真に専門職ではなく — 国際ソーシャルワーカー連盟にとっては — すべての国からくるソーシャルワーカーは結束した専門職団体として、一体となって並び立っている。

実際に、観察者は IFSW が会員を持っているすべての国で、同じ根底にあるソーシャルワークの原則とアプローチを見ることができる。一例がある。ある会議で、ソマリランドのソーシャルワーカーであるモハンマドが、私に近づいてきて、私の実践について尋ねた。私は、ニュージーランドで行っているコミュニティーワークと精神保健の経験を話し、次に彼のソーシャルワーク実践のことを尋ねた。「全く、あなたと同じです。」と礼儀正しく答え、頭を下げしてお辞儀をした。私はもっと尋ねたくなった。彼はこの時、ある遊牧民との前週の活動について話した。

「16歳の女性が妊娠したのですが、結婚はしていませんでした。部族指導者と彼女の家族は、これは非常に悪いことだと考えて、彼らは、彼女が生きるための基本的な必需品がないために死ぬ砂漠に彼女を捨てると言いました。それで、私は別の家族が1年間彼女に何匹かのヤギを貸すように手配しました。彼女はパンやミルクのためにこれらを使うことができました、そうすれば、彼女は種族にそのような負担をかけないでしょう。それから、私は種族の古老のところへ行って、彼女が貢献することがまだできると説明しました、そして、私は彼女が留まることができるかどうか、彼女のために尋ねました。彼らは、できると答えました。」そして私を見つめながら、「私もあなたと同じ仕事をしています」と、続けた。

モハンマドは正しかった。彼の仕事で適用される根底にある原則は、世界中のソーシャルワークに見られるものである。私たちは、山羊の購入、政府への支払いや慈善事業に異なる通貨を使うことができるが、私たちは皆資源を見つけ、社会的能力を強めるために人々を結びつけ、自分たちの将来に展望を持たない人々のために権力構造で擁護する。モハンマドによって示されたように、そのような仕事はしばしば命を救う。

最も多様な状況で、我々がその根底にある共通した方法論を確認することができるという事実は、主に IFSW とソーシャルワーク教育に焦点を当てている姉妹団体である IASSW（国際ソーシャルワーク学校連盟）の成果である。これらの団体は、世界中の実践者が相互に学び合い有効な知識を共有し、複雑な地球規模化された世界に整合する実践基準を絶えず提起している。

IFSW は、現在 110 の国家レベルの会員で構成し、世界中で何百万人もの実践者を代表している。IFSW は 5 つの地域に分割され、すべての地域が活発な意見を出し、地球規模、地域、国家の問題に対処している。しかし、IFSW は最初からこのようには始まらず、1928 年では状況は全く違っていた。

## 1928 年から 1956 年まで

IFSW は 1956 年に正式にこの団体名を採択したが、それは 1928 年 7 月にパリで開催された国際ソーシャルワーク会議で設立された前身団体から発展したものである。この会議は、5000 人以上の代表で構成されたもので、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の前身である国際ソーシャルワーカー恒久事務局（IPSSW）を設立することに同意した。同時に、我々の 2 つの姉妹団体である国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）と国際社会福祉協議会（ICSW）が設立された。

国際ソーシャルワーカー恒久事務局（IPSSW）は、最初の 20 年間は、ベルリンに拠点を置いて活動をしていたが、ヒトラーが権力を握ったとき、移動しなければならなくなって、最初はジュネーブに、そして、その後プラハに移した。驚くことではないけれども、1939 年から 1945 年まで、事務局は第二次世界大戦のために効果的に機能することができなかった。しかし、戦後になって IPSSW は、チェコスロバキアの政治情勢が運営していくことが不可能になった 1948 年まで、プラハに留まった。

世界大戦や冷戦の出現に起因して引き起こされたコミュニケーションや旅行の困難にもかかわらず、ソーシャルワーカーは時々会議で会うことができた。このような経過を経て、7 か国の国家協会が会員になるならば、新しい団体を作るという合意に達したのは、1950 年のパリにおける第 5 回国際ソーシャルワーク会議においてであった。その目的が達成されたのは、ミュンヘンで国際ソーシャルワーカー連盟が上記の 12 か国の創立会員団体で形成された 1956 年であった。

#### **1956 年から 1966 まで**

IPSSW はそれから 20 年間活動をして、最初はベルリンに拠点を置いたが、ヒトラーが権力を握ったとき、移動しなければならなくなり、最初はジュネーブに、そして、その後プラハに拠点を置いた。もっともなことだが 1939 年から 1945 年まで、事務局は第二次世界大戦のために効果的に機能することができなかった。しかし、戦後、チェコスロバキアの政治情勢が移動することを不可能にした 1948 年まで IPSSW はプラハに残った。

世界大戦と冷戦の出現によって引き起こされたコミュニケーションと旅行の困難にもかかわらず、ソーシャルワーカーは時々会議で会うことができた。こうして、7 か国の国家協会がメンバーになるならば新しい団体を形成するという合意に達したのが、1950 年パリで開催された第 5 回国際ソーシャルワーク会議であった。国際ソーシャルワーカー連盟がミュンヘンで上記の 12 の創立会員団体でつくられたとき、その目的は 1956 年達成された。

#### **1956 年から 1966 年まで**

新しい国際ソーシャルワーク団体は、1957 年すぐに倫理という団体の基盤問題に注目し、今日の『ソーシャルワークの倫理 — 原則の声明』になったものの設定作業を始めた。国家団体間の経験を共有することが、新しい IFSW にとっての高度の優先課題であった。

創立実行委員会は、そのような約束が、国家レベルおよび国際的なレベルで会員の増加につながっていることを望みました。強力な国家団体は、国際レベルで活発な役割を引き受

けてもらい、それによって、ソーシャルワークが国連で達成しようとする試みを強化しようとした。

会長と役員は、1959 年までは国連とその機関においてソーシャルワークの意見を推奨し、再建後 3 年で、IFSW は国連経済社会理事会で顧問地位を承認され、その後国連の一機関に昇格した。

国際ソーシャルワークの論議を促すことは、国際ソーシャルワーク・ジャーナルを刊行するという 1958 年の決定によって、大いに強化された。ジャーナルは確立され、現在も IFSW、ICSW と IASSW によって所有されている。しかも、今日では、このジャーナルは現在、利用できる国際的なソーシャルワークに関する最も重要な参照されるジャーナルの 1 冊となっている。

戦後の期間は、有意な社会的関連性から再建問題に対して慎重な注意を必要とした。ソーシャル・ここで、1960 年にローマで開催された第 10 回世界ソーシャルワーク会議のテーマは「*変わりゆく世界におけるソーシャルワーク：その機能と責任*」であり、IFSW は社会政策に影響を与えるソーシャルワーカーに関するセッションに対して特別な責任を持つこととなった。

この重要な会議に至る主導的役割では、IFSW 理事会は、社会政策開発におけるソーシャルワーカーの活動に関して会員調査を行った。この作業の言外の意味は、国連へ国の代表派遣団にソーシャルワーカーを含める運動であった。そのようなキャンペーンの成功を判断することが難しい一方、ソーシャルワーカーが政府と国連活動の多くのレベルで見つかることができることは明白である。

1960 年代は、我々の姉妹団体であり、後に、国際ソーシャルワーク協議会となって長くなるが、当時の国際ソーシャルワーク委員会の運営を変えようとする動きに対する懸念をもたらした。しばらくの間、3 団体が 1 団体になるために合併しなければならないかどうかに関する論議があった。最終的な決定は、IFSW はそのエネルギーをその自己団体の会員基盤を強化することに置かなければならないということであった。

我々が、倫理学がダイナミックな話題であるということを知っているように、ソーシャルワーク実践の組織の一部である。したがって、1961 年に、専門職倫理に関する特別会議が招集され、300 人以上の代表が参加した。

ケースワーク、グループワーク、そしてコミュニティ・ワークという有名なソーシャルワ

ークの3本柱に関して、最後の柱は1962年リオデジャネイロで開催の第11回世界会議で強調された。それはラテンアメリカで開催された最初の国際会議のテーマとして、まさにうってつけであった。パナマがIFSWの23番目に加盟が許されたのもこの会議であり、丁度6年で会員が2倍近くになり、ギリシャ出身のリツア・アレキザンドラキが第2代IFSW会長に選出され、1984年に彼女が死亡するまで名誉会長になった。

しかし、1963年までに、最も重要な人権問題が出現し、その年の、そして、それ以降のIFSWとIFSW会員にとって難題となる問題が出てきた。世界の注目が、南アフリカとアパルトヘイト政策に集中し始めた。

南アフリカ・ヨーロッパ・ソーシャルワーカー協会は、当時IFSWの会員であり、ヨーロッパ人と非ヨーロッパ人の調整団体を確立しようと働きかけを続けたにもかかわらず、当事国政府の政策であるために、そのような団体は、設立されることができなかった。

非差別原則は、ソーシャルワークにとっての基盤原理であり、この非常に難しく、デリケートな状況を解決するために何年もの苦悶の議論と試みの後、南アフリカは1970年会員から除籍され、1998年に会員に再加入できる資格を得るまで放逐された。実際、南アフリカは、この永続的な問題のために白色、有色、黒色の南アフリカ・ソーシャルワーク協会で調整団体を創設できた2007年まではIFSWの会員になれなかった。

1959年国連にIFSW代表団の地位を確立したので、IFSWは各団体の代表団の地位を確立するためにユネスコ、欧州会議、米州機構との交渉を始めた。これはその後の10年の間に3機関すべてに対して起こることになっていた。

1960年代の中頃までに、理由が何であったにしても、3団体、IFSW、IASSWとICSWはそれぞれ独自の方向に動き始めて、別々の会議を主催していたことが明らかになった。

こうして、IFSWは1965年に世界レベルでも地域レベルでも両方でIFSW自身の会議を開催することにした。計画は1968年にヘルシンキで開催された第1回IFSW世界会議で始まった。しかし、その前の1966年5月にフランスのストラスブルグで第1回ヨーロッパ・セミナーが開催された。その日以降、地域のセミナーと会議は、ヨーロッパの地域の強い特色があり、すべてのIFSWの地域の全域で様々な成功レベルをもって広がった。

## 1967年 - 1980年

ヨーロッパの地域会議で成功した後、アジア太平洋地域が、1967年11月にタイ国のバン

コクで初の第 1 回地域会議を主催することになった。アジアを変える上での現在および今後生じるソーシャルワーク問題に対処する際のソーシャルワーク機関の行動計画というテーマは、今日でも適応でき、依然として完全に現在のテーマである。

特に重要なことは、この会議に、国連、国際労働機関、ユニセフ、WHO、国連開発計画の代表やビルマと中国の大使及びタイ政府の担当大臣が出席したことである。重要なことは、主要な機関の代表が、その時期にそのような大会に参列し、IFSW とこの専門職の重要性について講演したことであり、これはこの地域の専門職にとっては特に重要なことである。

1968 年は、フィンランドのヘルシンキの近くのオタニミで IFSW の第 1 回国際世界会議が開催された年である。テーマは、ここでも「ソーシャルワークと人権」であり、IFSW が公式に人権と社会正義の重要な領域に関与することを表明した。IFSW 新会長のキャシー・ラヴィールは、

このシンポジウムはソーシャルワーク実践に深く関わる基本的問題に関する議論に対して重要な段階を記した。個人、家庭、地域社会、及び国家に関する非常に多様な問題に直面しているソーシャルワーカーは、より大きくなった専門職交流の機会に注目しなければならないこと、並びに彼らが相互の問題についての考えと経験を交わす議論を通してより大きな専門職の団結を成し遂げようとしなければならない。

と述べた。

この重要なシンポジウムの締めくくりは、世界中の加盟協会と個々のソーシャルワーカーが、政治的、人種的、民族的、宗教的、その他の相違に基づいた差別と人権の否定すべてに反対する決議であった。

一定期間を越えたすべての協会に言えることであるが、それらの有効性と政治的直接行動主義を直接か、あるいは感知した感覚がある。1969 年に一人の学生が協会の総会を乗っ取ると全米ソーシャルワーカー協会を脅した時がソーシャル・うであった。ほぼ同じ頃に、ドイツ協会が、ソーシャルワーク教育の変化を懸念する学生によって、彼らの会議に混乱させるという脅迫を受けた。要するに、学生は IFSW や国家会員団体のような公的組織団体は、『病める社会とマシュマロのような行為をする団体』を変えるには十分なことをしないという見解をしていた。

ソーシャルワークが解決の一部であったか、あるいは問題の一部になったかに関する反省が、1970 年 8 月にマニラで開催された第二回世界会議に持ち越された。この会議の基調講演者は、著名なホイットニー・ヤング氏で、氏はアメリカの NASW 理事長、著名な市民権リーダーで、政府と民間レベルで広く尊敬されている。彼は、世界混乱と受け入れがたい社会を維持する彼らの役割の中で苦悶するソーシャルワーカーについて話した。

熟練した手術を切望する状況なのに、我々はバンドエイドを用い、咳止めシロップを処方する；思いやりのない抑圧的な社会がもたらす傷を治すのではなく和らげる；そして、実利的に彼らの状態を変えることなく貧しい者や軽蔑される者の苦しみを少なくすることを我々の役割として受け入れるには多すぎると思われる。

この課題は IFSW に、IFSW の当初からこの専門職に挑戦してきた問題 — 専門職のソーシャルワークとは何か？ ソーシャルワークの目標は何か？ それらはどのように決められるか？ — をもう一度思い返させる。

機関の権限が広ければ広いほど、その仕事を支援する自由裁量になる資源が少なくなると提唱されてきた。これは IFSW にも、姉妹団体である IASSW にも ICSW についても言えることである。この 3 団体は、依然として今日も、非常に質素な資産と職員の基盤で運営しているが、世界中のあらゆる地域で加盟団体の基盤を形成している。こうして、1971 年、まったく任意の原則で国際団体を運営するという問題をずっと以前に認識して以来長くなったが、IFSW 執行委員会は、恒久の有給事務局の設立に関する議論を始めた。

後任のスイス人の事務総長、キャサリン・クアードは、スイスのバーゼルで恒久事務局を設立し始めた。3 人の前事務総長（ドナルド V. ウィルソーシャル・ン、マーガレット・アダムズとネルソーシャル・ン・ジャクソーシャル・ン）は、全員アメリカ人で、無給であったが、アメリカの全米ソーシャルワーカー協会の支援を受け、ニューヨークで運営した。この 10 年間には、最初の非ヨーロッパ人の会長、フィリピンのテレシタ・シルヴァが 1972 年に選出され、1976 年までの会長任務を果たした。

会長職は再びヨーロッパに戻り、1976～1980 年の期間イギリスのメアリー・ウィンザーが会長に選出された。ほぼ 25 年の活動の中で、1970 年代の活動では、IFSW は団体の会員を増やそうとすることと同時に組織的構造の整備をした。1974 年までには、第 3 回ソーシャルワーク会議が、アフリカ大陸では初めてケニアのナイロビで開催された。優れた成功を収め、アフリカ大陸の 19 か国から代表団を含め、600 人の参加者があった。13 か国の新しい団体国の参加は、新記録であり、加盟国の総数は 56 か国になった。

IFSW がスイスのジュネーブに有給の事務局を設定したのは、この時であり、事務局長にはアンドリュー・ムラビヨワ-アポストルが任命された。アンディは、彼の妻エレンによって彼の仕事で援助された。両人ともジュネーブの国連内で広いネットワークを享受し、そして、エレンは国連ジュネーブへの IFSW の首席代表として残る。事務局を強化することは、会員レベルでの活動の増大と様々な団体の地位を持つ代表によって、さらなる活動の

時代を告げた。

1970 年代後期は、ソーシャルワークの定義に関してかなりの作業が行われた。この文書は 1982 年にブライトン会議で是認されることになっていて、1996 年年まで修正されることなく続いたが、1996 年には新しいソーシャルワークの定義に修正する委員会が設定され、その新しい定義は最終的には 2001 年に実践者と教育者によって採択された。

## 1980 年代

1980 年代は、IFSW は特に人権と社会正義に領域において活発な年であった。この時までには、IFSW はニューヨークとジュネーブとウィーンの国連に代表チームを置いていた。

1980 年代中頃には、IFSW 人権委員会は、イギリスのテリー・バンフォード委員長の下で IFSW 人権委員会自体を世界中のソーシャルワーカーと社会福祉ワーカーの公民権と政治的な権利を守ることでこの専門職の重要な伝達手段として確立した。

責務とは離れて、何らかの方法で人権が脅かされている個々のワーカーに対する代理人を選任することがある。これらの中で最も厳しいものは政治投獄であり、そして、その初めから、人権委員会は不当に拘留されたソーシャルワーカー、社会福祉ワーカー、ソーシャルワーク学生のためのロビー活動をした。人権委員会も、その会員団体基盤を通じてソーシャルワークと人権の教育を促進するのが活発である。委員会は、*ソーシャルワークと人権に関する訓練マニュアル*と*国連児童の権利条約のためのマニュアル*の 2 つの目標となるマニュアルうまく作った。

1980 年代と 1990 年代を通して IFSW もこの専門職の地位を明瞭に表現している一定範囲を開発し始めた。それは、すべてチョーンシイ・アレキサンダー (USA) IFSW 会長 (1980～82) の指揮の下で、1980 年に人権に関する方針書から始めた。IFSW が 1981 年にその 25 周年記念祭を祝ったとき、連盟の役員は会員名簿に彼らのプロフィールを提示するよう頼まれ、そして、チョーンシイ・アレキサンダーは彼の主な責任として人権、少数民族の権利と正当で気前がよいソーシャルワーク構造を目指すことによって先導した。1982-84 年 IFSW 会長であったオーストラリアのグレイス・ボーン (Grace Vaughan) は、「参加民主主義は、草の根からより良い社会を共有し、気にかけて、建設することで、恐らく私の信条の概要である」と述べた時、オーストラリアは同じ感情を表した。カナダ人のゲイル・ギルクリスト・ジェームズ (1988-92 年 IFSW 会長) が、「収容者の尊厳と人々の政治的権利を信じる専門職集団であるソーシャルワーカーは、すべての者に対して社会的正義をという目標に向かう努力をしている IFSW を通して統一され続けることができ、ソーシャルワー



カーは人間の日常生活が国内および国際的出来事と離しては考えられない」と述べたとき、彼女は今日のグローバリゼーションを予見していた。

グレイス・ボーンが 1984 年 1 月に突然死亡したあと、イギリスのジェニー・トーマス (Janie Thomas 1984~1986) が後を継いだ。ジェニー・トーマスの IFSW 会長職の在任中、IFSW は核軍縮に対する支持と非暴力的な紛争解消の展開に係わった。また 1985 年には、連盟は国連の国際平和年に強力に関わり、国連から IFSW の貢献が認められ「平和の使者」とであると宣言された。8 年後に、国連は IFSW を国連プログラムの典型的な支持に対して『国際家族年の後援者』と指定した。

オーガスタ・マケイブ (アイルランド) は、1986 年から 1988 年まで IFSW 会長として勤めた。彼女の多い功績の一つは、政治情勢が変わり、これが可能になったため東ヨーロッパのソーシャルワーカーに手を差し伸べることであった。

## 1990 年代

1990 年代までに、IFSW は新しい段階へ移動していて、1992 年にはアンドリュー・ムラビヨワ・アポストルは事務局長の役職を引退して、2001 年の彼の死まで名誉局長として勤めた。事務局長のポストはノルウェーのトム・ヨハネセンに引き継がれ、事務局はオスローに移った。ノルウェー・ソーシャルワーカー協会の支援を得て、事務局長は 1999 年までそこに留まったが、その年にスイスに戻った。スイスに戻った後プロのジャーナリストであるトム・ヨハネセンの妻リスベス・マツトソーシャル・ンが、通信役員として事務局職員として、2004 年 12 月の彼女の早死まで事務局スタッフに加わった。

アメリカのスザンヌ・ドウォラク=ベック (1992-94 IFSW 会長) は、リーダーシップと会員という枠を越えて「IFSW のフレンズ」と言われる非常に成功したプログラムを始めた。「IFSW のフレンズ」というのはソーシャルワーカー、ソーシャルワーク学生、ソーシャルワーク団体と国際ソーシャルワークを結びつけるものである。

スウェーデンのエリス・エンバル (1994-2000 IFSW 会長) は IFSW をインターネットに置いて、コミュニケーションのために電子メールの使用を導入し、それによってそれまでには到底できなかった範囲にまで、連盟の可視性を増大した。彼の在任期間も、人権専門職としてのソーシャルワークへの継続的な貢献によって特徴づけられた。

1990 年代のハイライトは、1995 年のコペンハーゲンでの社会開発のための世界サミットに IFSW が強力に関与したことであった。広い観客を対象にした IFSW のニューズレターの

特別号が、刊行され、東ヨーロッパにおける貧困根絶、失業、社会的な統合と変遷の領域における、社会開発に対する新世界秩序へのソーシャルワークの貢献に焦点を合わせた。また、同年に北京で開催された第4回国連世界女性会議でも、IFSWは強い存在感を示した。

1990年代を通して、IFSWは成長を続け1999年までに加盟団体が68団体に達した。この10年間で、ソーシャルワーク実践の発達に幼少期にあるか、まったく無かった国々でソーシャルワーク実践の発達に巨大な強調が置かれた。ヨーロッパの地域では、ベルリンの壁の倒壊と冷戦の終わりの後で、これは特に重要であった。同様に、アジアと太平洋の地域では、大きな進歩がソーシャルワークの発展でなされていたこと、そして、あるいは、ヴェトナム、インドネシア、パプアニューギニア諸島の多くの国の協会でもなされた。

オーストラリアで2人目のIFSW会長イメルダ・ドッズ(2000-2006)も、組織的構造を強化して、IFSWの可視性と透明度を増やすことによって、多くの国々に少なからず前進をもたらした。彼女は、IASSWとICSWとの協調を甦らせるのに成功して、「ソーシャルワークと社会開発のための世界的課題」(課題)へと導いた。

## 2000年代

新しい世紀の始まりは、ソーシャルワーク専門職にとっては、かなりの範囲に重要な課題をもたらした。保守化への政治志向とある場合には超保守的政府への世界的な変動は、ソーシャル・サービス事業を開発するために働くことが、特により多くの先進諸国で難しくなったことを意味した。

ソーシャルワークの発展と経済的に貧困な国での重要なサービスの設立も、発展途上国に提供することに関する高所得国の政府による援助の約束レベルが、政府の怠慢によって疑問が呈された。貧困と千年紀発達目標に関する議論と専門職との関わりは、それが「ソーシャルワークと社会開発に対する出会的課題」という顕著な戦略になるまで続いた。

2004年に始った課題のプロセスは、3つの世界的団体の一連の平行した成果から生まれた。IFSWの役員は、この連盟がソーシャルワーク実践者が感じた世界的に低い士気と信頼の喪失という変化している社会状況と証拠に応じて、より明確な専門職のリーダーシップを提供する戦略を展開する必要があることに同意した。

同時に、IASSWは世界的な影響を増やすための戦略を調査していたし、ICSWは世界的な会議とその弁護的な戦略の関係を変えていた。これらの目標の各々を追い続けるために、3団体は合同世界会議を開くことに決めて、2010年に香港で主な会議を計画し始めた。世界

的なパートナーシップを築き、世界会議を計画することは時間がかかり、内部の民主主義的過程と関係構築を含む。

合意を得て、3 団体は関与を支えて、徐々に計画と共有分析を開発した。2010 年会議のプログラムは世界の社会的課題の展開を支援するために作られていて、3 団体はどのようにプロセスが支援され、維持されるかを調べ始めた。

背景書類は委任され、国連と他団体との協力が進んでいる考えを調査するのに用いられた。会員の国と団体は戦略的な開発に参加する準備を調べるよう促され、そして、戦略的な開発に参加する準備をすることになり、団体は、ソーシャルワーカー、ソーシャルワーク教育者、社会開発実践者は実践者と協議した。

およそ 3,000 人のソーシャルワーク実践者、教育者、社会開発専門職が 2010 年の世界会議で集まったとき、課題は概念から現実へと変わった。集中協議ワークショップと報告という方法をとって、課題として次の 4 本柱が認定された：

- ・「社会のおよび経済的平等を進めること」；
- ・「個人の尊厳と価値を確実にすること」；
- ・「持続可能なコミュニティと環境的に鋭敏な発達を進めること」；
- ・「持続可能な人間の関係を通して安寧を進めること」。

この課題を大事にして、公的な誕生に育てて 2006 年から 2010 年まで会長であった、デーヴィッド・ジョーンズは 2010 年に IFSW 会長職を辞し、次に IFSW を代表する新事務局長には、ローリー・トルーウェルが就き、この課題をさらに進める世界的な戦略的討議とともに、一連の見出しをこの専門職を強化する具体的行為に代えることと、世界的、地域的、国家の社会政策にもっと大きな影響を与える具体的な行為にした。

2011 年に、ガーナで会議が開催され、その会議に 3 つの国際団体から代表が 2 名ずつ参加し、この課題に対する次のステップを協議するために召集された。

この結果、新しい文書「ソーシャルワークと社会開発に対する世界的課題：行動への参画（課題遂行）」が出された。この文書は 3 団体すべての会員による賛同を得、また国連代表のヘレン・クラークによって公式に認められた。

課題遂行文書の主要な特徴の一つは、ソーシャルワーク実践の 3 段階の目標レベルに目標を設定されていることであり、ソーシャルワーク実践を再構築すること、社会政策に影響を及ぼすこと、そして、より行動指向なるように ICSW, IFSW, IASSW の内部政がより行動指向になるようにすることである。IFSW と IASSW では、世界的なソーシャルワークの定義

を更新し、IFSW は定款にある協会の目的を改定する決定を行った。

IFSW の公的目的は 1956 年の定款起草のとき以来変更がなかった。当時は会員間の内部協力に焦点を当て、強化し、会員間の内部協力、高い実践水準を維持し、この専門職の認知を得ることに集中した。2014 年に役員会で同意した新目的に関しては 1016 年に開催される総会において提案されるであろう。2014 年にメルボルンで選出された新会長ラス・スタークは、それらはすでに役員会で実行に移されており、これらの目的を「移行目的」と言い役員会の事業計画を展開することになっている。

移行目的は、より外向的であり、対外行動と社会変革に焦点を当てる。

出現する 4 つの重点領域は

ソーシャルワーカーは、独自の重要な社会貢献をする。彼らは人々及び彼らの社会が現在および将来の世代のために彼らの可能性に到達するよう社会的に持続可能な成果を促進する。IFSW は可次の目的を通して達成する

IFSW は、以下の目的によってこれを達成するようソーシャルワーカーを支援する：

- ・ 関係構築 ソーシャルサービスを利用する人々と、その人たちの住む広い地域社会との協力関係は、ソーシャルサービスが人々の固有の長所を認識し、サービスが地域社会の願望を満たすように計画されること。
- ・ 活動促進 共有学習と共同活動のために国際と地域の協力を促進すること。
- ・ 政策展開 最高のソーシャルワーク実践を強化する倫理声明と政策を展開すること。
- ・ 唱道 社会正義と「個人の、集団の、文化的な人権」に対する世界的、地域的、国家的なレベルで唱道すること。

2014 年には、2000 年に制定され 14 年間続いてきたこれまでの定義は改定されたが、旧定義ではソーシャルワークは次の通りである

「ソーシャルワーク専門職は、人間の福利（ウェルビーイング）の増進を目指して、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人びとのエンパワーメントと解放を促していく。ソーシャルワークは、人間の行動と社会システムに関する理論を利用して、人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する。人権と社会正義の原理は、ソーシャルワークの拠り所とする基盤である。」

2000 年には IFSW により、そして、2001 年には IASSW によって、この世界的な定義が採択されたことは、大きな発展を意味した。この定義は影響力があつて、文献でしばしば引用された。

それはこの専門職の社会正義と人権への関わりを強調するもので、難問に直面し、挑戦する多くの最前線のソーシャルワーカーにとっては、刺激の働きをした。しかし、その採択以来、2000年の定義は、かなりの批判も受けてきた。

この問題点は、西欧中心への偏向が認められ、個人の権利は強調しているが、集団の権利、社会が達成する必要がある連続性、安定性と社会的結合を達成するという社会にとっての基本的なニーズの欠如が認められた。

更なる問題は、現行の定義がソーシャルワーク理論あるいは原住民の知識への言及をしなかったということであった。後者は、西洋ソーシャルワークモデルの不愉快な衝撃を経験した原住民ソーシャルワーカーにとっては大問題であって、ものすごい結果を伴って彼らの地域社会に押しつけられた。

具体的には、これはオーストラリアにおける盗まれた世代の原住民児童を移動するソーシャルワーカーの積極的な参加を含む。そこで、ソーシャルワークの2つの国際団体は、共同のタスクフォースを設立して、我々が会員を持っているすべての国で、相談窓口を開いた。さまざまな草案が展開されて、検証された。

あらゆる一語が、世界の至る所で、かなり精細に調べられた。ソーシャルワーカーと我々が働いている地域社会との協力関係への提示案が受け入れられ、ソーシャルワークは個人レベル、地域社会レベル、社会一般レベルで変形される傾向にある。強調されたのは、ソーシャルワーカーはしばしば、個人、家族、文化、集団、言語と云った競争している権利の中を進まなければならないことである。

単に人権を述べても、この仕事の複雑は規定できない。フィードバックも、ソーシャルワークが相互依存であり、独立でないことを強調することを証明し;我々の仕事の多くは、家族、コミュニティ・リーダーと政府が責任をとるのを奨励することにある。タスクフォースは、慎重にこれらの提出物を最終案に織り込み、2014年にIFSWとIASSW総会で承認された。

新しい定義は次の通り規定する：

ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知<sup>1</sup>を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。」

より先験的な専門職の表現に沿ったものであり、地域の、地方の、世界的な複雑さに対して大きな貢献をするために置かれる新しい 2000 年の定義に関しては多くの反響がある。新しい定義は、社会変革、人権、エンパワメント（権利拡大）と解放に焦点を置いている。それは、集団責任を強調している。

それは、ソーシャルワークがそれ自身の理論的な基盤を持つものであり、我々が働く人々と協力して知識を造る、そして、我々も他の学習団体を引きあげることを示す。

IFSW のより外向き重視と優先課題及び新ソーシャルワーク定義の注入で、世界中に及ぶ専門職の統一の新しい思潮が作られてきた。

例えば、世界ソーシャルワークの日の年中行事では、「ソーシャルワーカーの表彰」から、ソーシャルワークの成果、業績、持続可能な社会への貢献」に変わった。IFSW の会員は、明らかにこの変化に対して前向きに応じた。2014 年には、世界ソーシャルワーク・デー（WSWD）のポスターが 33 の異なる言語の自発的に翻訳された。このポスターは、「社会的・経済的平等を促進する」という課題を表した。2015 年の WSWD ポスターは、『人の尊厳と価値を推進する』という課題テーマに焦点を当てている。このポスターは、プラカードを持ち、穏やかに社会変革を主唱するソーシャルワーカーを表した。2015 年のポスターは、40 の異なる言語グループに自発的に翻訳された。

2014 年と 2015 年のそれぞれの WSWD イベントで、IFSW メンバーと非会員は、世界中の国々で集会、公開のイベントと一部でデモを行った。彼らはメッセージを彼らの政府へ持って行って、方針提案をして、そのうえ、ニューヨークとジュネーブで国連に声明を出した。

この簡潔で不完全な歴史は、この専門職の発展と成長、そしてそれが世界政治の変化によってもたらされた思考の新世代と新環境で応えた方法を示している。

しかし、本文はソーシャルワーク史の負の歴史の側面に触れなかったし、IFSW が方針の欠如あるいは会員への挑戦の欠如のよって、結果として人々の権利の濫用に影響を与えてきたかどうかを探求していない。

例えば、ナチ体制下のソーシャルワーク、あるいは土着の児童を彼らの家族から離して白人家庭に託置したオーストラリアのソーシャルワーカーは、我々のドイツ人とオーストラリア人に、一専門職が、いかに建設的であると同時に破壊的でありうるかに関してかなりの反省をもたらす。

ソーシャルワークのこれらの否定的な例が IFSW によって探索されなければならないし、されるであろうが、他の出版物では、ソーシャルワーカーは国際的な同意された標準を持つことの重要性も強調している。

上記例の両方とも、「人権」が公的に専門職基準に採択される前に起きており、人権への固執は、現行の IFSW 会員にとっての基準である。IFSW は、彼らの世界的な専門職の全ての会員に対して一定レベルの責任を設定して、実践基準に対するメンバーの非厳守への問題を調査する恒久倫理委員会をも確立した。

社会的に正当で公明正大な世界に向けて働く専門職の義務を果たす際に能力を増やさなければならない責任のレベル。

歴史も、IFSW が大きく表明された懸念「ソーシャルワークは、『バンドエイド』であり『問題の一部』である」を越えて動いたことを示している。

当連盟のムードは、具体的に、変形変化を引き起こして、単に個人を社会に適応させることでなく、すべての民族のニーズを満たすために社会を変えることに集中することのうちの1つである。

IFSW は、成長し、拡大し続ける。毎年、新しい国家レベルの会員が加盟を求めており、本記事を書く時点で、3 団体の新しい会員申請手続き中であり、郵便投票のために用意されている。

この成長と拡大は、いくつかの理由のためにもものと考えられることができる。一つには、ソーシャルワーカーが広い社会に与えているプラスの影響に気づくことが多くなっていることである。

新しく誕生したソーシャルワーク協会が IFSW に加盟することを望むもう一つの理由は、IFSW が信憑性と認知を提供するのを感じるため、そして、さらに、IFSW の方針と弁護的な役割を通して、世界中至る所でソーシャルワーカーのニーズと抱負を支援する影響を明らかに作っているからである。